

令和3年度における大竹市財政の動向及び財政運営方針

1 財政の動向及び財政運営方針

《財政の動向》

令和3年度は、歳入においては、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により市政収入は全ての税目で減少し、市税収入全体として前年度に比べ2億円以上減少する見込みです。歳出は、公債費はほぼ横ばいですが、扶助費は増加傾向にあります。

このような状況下で、令和3年度当初予算は、歳出に対する歳入の不足を補うため、財政調整基金等の取崩額を計上しなければ予算を編成することができませんでした。宮島ボートレース企業団からの配分金を当初予算に計上することなどで、決算ベースで実質収支を黒字にすることが可能な範囲に基金取り崩しを留めた予算となっています。

令和3年度当初予算の予算規模は、過去最大となった令和2年度当初予算に比べて大きく減少しましたが、継続して進めている普通建設事業により、引き続き元金償還額を上回る多額の地方債を発行する見込みです。このため起債残高が増え、それに伴い、数年後から公債費が増加する見込みです。

《財政運営方針》

令和3年度は、「大竹市まちづくり基本構想・基本計画」のスタートの年度となります。第1期大竹市まちづくり基本計画では、「生涯おおたけ やっぱりおおたけ」をまちづくりのテーマとして設定しています。未来にあふれる「8つの幸せ」の実現に向けた施策を展開していきます。

8つの幸せ

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 豊かな自然と共存できる幸せ | ② 活気とにぎわいにあふれる幸せ |
| ③ 笑顔と優しさに包まれる幸せ | ④ 子どもが健やかに育つ幸せ |
| ⑤ 安全で快適に過ごせる幸せ | ⑥ 生涯安心して暮らせる幸せ |
| ⑦ 学び、成長できる幸せ | ⑧ 大好きなまちで生きられる幸せ |

上記の8つの幸せの実現に向け、「分野別取組宣言」で示した個別施策に取り組むとともに、まちづくりの理念や基本目標を前提とした、①誰もが健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる魅力的な地域を実現する、②結婚・出産・子育ての希望をかなえる、③地域経済を活性化し、安心して働ける魅力的な雇用の場を創出する、という3つの基本目標を設定した大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいた取組を行い、将来的に「安定した財政運営」を目指し行財政改革に取り組んでいきます。